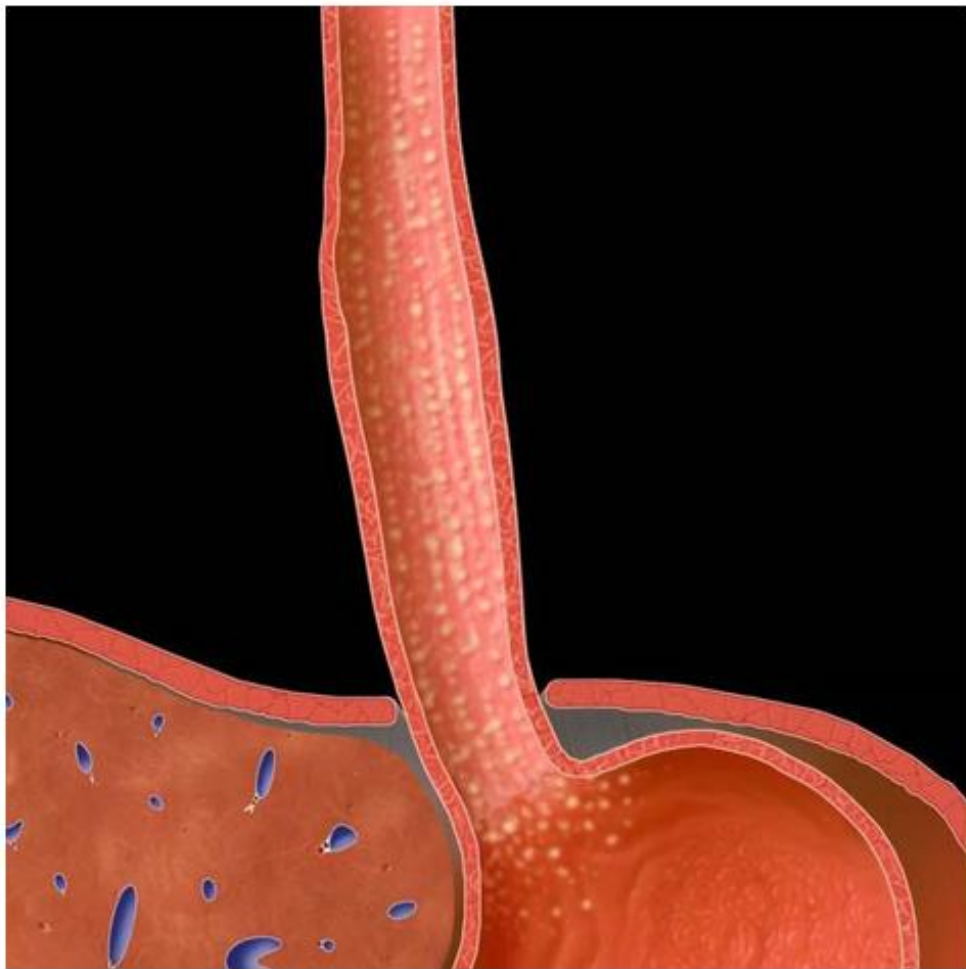


食道カンジダ症とは

食道カンジダ症とは、カンジダという真菌（カビ）が食道内で増殖し、胸焼け、胸痛、嚥下時痛などの症状を引き起こす病気です。



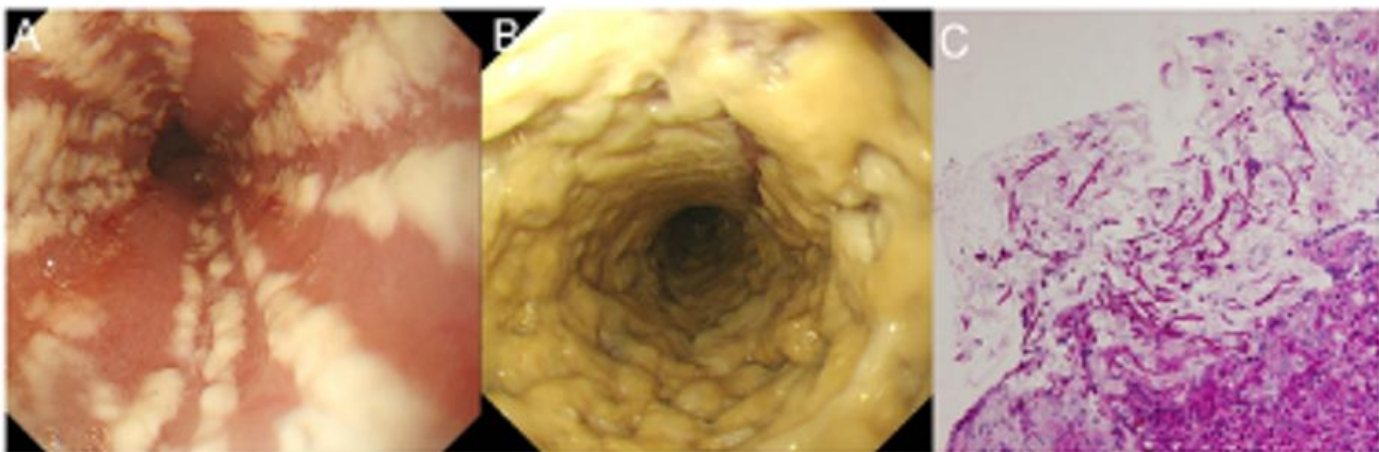
カンジダ（カンジダ・アルビカンス）は、
口腔、咽頭、消化管、皮膚などに常在する菌
で、通常病原性はありません。



症状は、嚥下（えんげ）困難、胸骨部の痛み、
吐き気、嘔吐ですが、無症状の場合も多くありま
す。



内視鏡検査では、白色の苔状のものがみられます。この白苔（はくたい）を顕微鏡で調べたり、培養して確定診断を行います。

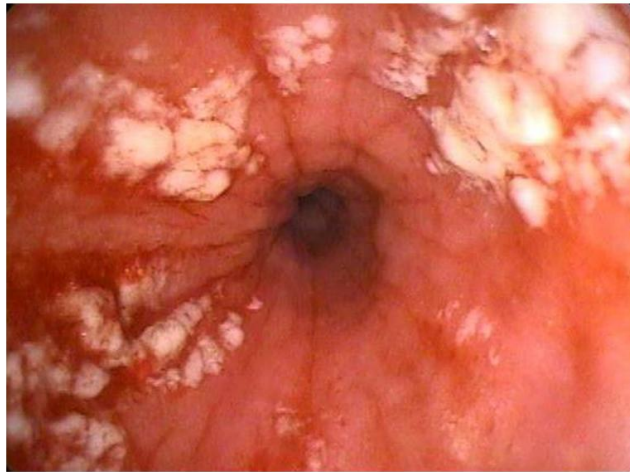


抗真菌薬（フルコナゾール、イトラコナゾール、アンホテリシンBの内服）にて治療しますが、原因となっている病気がある場合は同時に治療を行います。



補 足

免疫力の落ちた人（HIV 感染をしている人、糖尿病のある人、ステロイドを飲んでいる人など）や抗生物質を長期的に使用している人などで起こりやすいとされています。



予後は良好で、治癒後の再発は少ないと報告されていますが、まれに食道潰瘍形成や出血、穿孔、ろう孔形成、狭窄、真菌性敗血症をきたすことがあります。